

# 研究資料 黒田清輝宛書翰類の解読 1 解題と目録

著者	近松 鴻二
雑誌名	美術研究
号	426
ページ	111-132
発行年	2018-12-25
URL	<a href="http://doi.org/10.18953/00008946">http://doi.org/10.18953/00008946</a>

## 研究資料

### 黒田清輝宛書翰類の解説 1 解題と目録

近 松 鴻 二

#### はじめに

本稿は独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所所蔵の黒田清輝関係文書のうち、主として清輝宛の封書・葉書・電報・メモ等（以下「書翰類」と略記）を解説した釈文（原文のくずし字を活字体に変換したもの）を作成した報告の一部である。この釈文作成は平成二十五年（二〇一三）五月、同研究所の田中淳企画情報部長（当時）から依頼されたもので、釈文だけでは不十分と考え、目録および差出人や受取人の分析データなどの参考資料を作成した。

本書翰類は延べ二五六点と膨大なので、本稿では書翰類の概要が分かるようにある程度詳細な目録と解説で構成した。後日興味深く思われる書翰の影印を釈文と解説つきで紹介する予定である。

書翰類の写真のデータおよび紙焼きと、解説した釈文のデータとプリントアウトした資料と、作成・収集した参考資料は東京文化財研究所文化財情報資料部に保管されているので活用されたい。

#### 釈 文

本書翰類の釈文は、同研究所から提供された画像データと、それを出力した写真によって作成した。提供された書翰類のデータは、差出人の家別に黒田家・樺山家・旧藩主島津家・杉家（杉竹二郎）・橋口家と家令の篠塚家（一点を除き差出人は篠塚兼當）にまとめられ、写真撮影のため一点ごとに番号（本報告では史料番号とした）が付されていた。

解説に際しては、書翰類の文面（釈文では「本文」と表記）のほか、封筒に記されている受取人および差出人の住所・氏名、郵送されたものであれば、消印・貼付切手、後筆の書込み等の情報を可能な限り収録した。

解説作業は、まずまとめられていた家別に進め、逐次パーソナルコンピュータに入力した。しかし史料番号と家ごとの排列は時系列ではなく、内容の理解やデータの利用には不便なので、家別の括りを外し、延べ二五六点を一点ごとの時系列に再排列した。作成年月日不記載のものは、消印や記載内容などから確定あるいは推定できたものは該当箇所に排列した。それ以外の年・月・日不記載の書翰類は、年次不記載のもの、ついで年月次不記載のものを時系列に排列し、それ以外の書翰類はそのあとに排列した。

全体の再排列の完了したあと、家別に同様の再排列をした。

なお、橋口文蔵・杉竹二郎差出しの書翰類のうちフランス語で記述されているものは解説しなかった。

当書翰類全体の釈文は、作成年次順に明治十七年から十九年（一八八四～八六）を黒田清輝宛書翰類1、同二十年から二十七年（一八八七～九四）を同2、同二十八年（一八九五）を同3、同二十九年から三十年（一八九六～九七）を同4、同三十一年から四十二年（一八九八～一九〇九）を同5、同四十三年から大正二年（一九一〇～一二）を同6、同三年から同十二年（一九一四～二三）を同7、年次・年月・年月日未詳を同8として入力した。

ついで、家分けとして樺山家を明治二十八年から大正十一年（一八九五～一九二二）、黒田家①を明治十九年から同二十二年（一八八六～八九）、黒田家②を明治二十六年から同二十七年（一八九三～九四）、黒田家③を明治二十八年（一八九五）、黒田家④を明治二十九年から同四十三年（一八九六～一九一〇）、黒田家⑤を明治四十四年から大正三年（一九一〇～一四）と年次・年月日未詳、篠塚家を明治二十八年から大正八年（一八九五～一九一九）と年次未詳、島津家を明治二十四年から大正十二年（一九一〇～一四）と年次未詳、杉（杉竹二郎）家を明治二十七年から同三十年（一八九四～九七）と年月・年月日未詳、橋口家を明治十七年から大正十一年（一八九四～一九二二）と年次・年月日未詳として再入力した。

## 美術関連文書

本書翰類の釈文作成を依頼されたあと、黒田清輝は画家なので、美術ないし美術史に関わる部分を抽出するように指示されたので、その趣旨に沿って、本文中の該当箇所を抄出し、黒田清輝宛書翰類9として入力した。

## 凡例

一 冒頭のゴシック体二行は標題である。一行目上の一〜二五六の漢数字は本書翰類の通し番号で、次に区分けされた家名を配し、下の・付きの算用数字は写真撮影時に付与された史料番号である。二行目は筆者が付した史料名である。「家分け」の一行目は各家の通し番号で、二行目・三行目は「全体文書」中の該文書の標題である。

一 翻刻にあたり、原本の文字遣い、様式をそのまま残すようにつとめたが、編集の都合により次のようにした。

1. 文中に適宜、読点（、）および並列点（・）を加えた。ただし行の最下段には読点を付さなかった。
2. 原文の一行の文字数が印刷の一行の文字数を越えた場合は次行の下部に移した。
3. 漢字は、正字で記されているものは原則そのままとし、常用漢字には変換しなかった。
4. 変体仮名は、者のように、もとなった漢字を本文に記し、読みを右傍の（ ）内に平仮名で示した。
5. 異体字は、原則として正字に改めた。
6. 合字については、方（より）以外は平仮名に改めた。
7. 宛字・誤字・衍字はそのまま表示して、右傍に（ママ）を付した。正しい字が分かる場合は、右傍に（…か）と記した。
8. 解説ができなかった文字は□□…（字数分）、「」（字数不明）で示した。
9. 踊り字は、平仮名は「ゝ」、片仮名は「ッ」、漢字は「々」を用いた。大返しは、

濁点なしは「ゝゝゝ」、濁点ありは「ッッッ」、「ッッッ」、「ッッッ」（それゝゝの文字数）で示した。

10. 本文作成者以外の記載については、（異筆）とし、該文字を「」内に記した。
11. 抹消箇所は「黒田」とし、訂正箇所については、樺山を黒田に改めた場合は「樺山黒田」のように正しい文字を続けて記した。

12. 本文中に漢文様の記載がある箇所には、読みやすくするため、適宜レ点（レ）、および返り点（二）を付した。

13. 本文中の（ ）内の情報は筆者が作成したものである。なお特に必要と考えられる人名や固有名詞などには①②……を付し、原則として初出の該釈文に続けて註①②……として記した。

## 家分け

前述のように提供された素材は黒田家・樺山家・島津家・杉家・橋口家・篠塚家に分けられていた。

このうち黒田・橋口・樺山・島津・杉家については差出人を主とする略系図を作成した（挿図1 黒田清輝宛書翰類 差出人別の略家系図）参照。参考までに主な差出人の生没年月日および黒田清輝との関係等は次の通りである。

\*（ ）内の算用数字は太陰太陽暦（旧暦）使用時の西暦の日付、ただし明治六年（一八七三）一月一日以降は和暦と西暦の日付は一致する。

①黒田家…もともと薩摩国鹿児島藩士。総理大臣を務めた黒田清隆とは、同祖であるが、近縁ではない。

・清輝 慶応二年六月二十九日（1866.8.9）生 大正十三年（1924）七月十五日没

・清兼 天保八年五月（1837.6.3〜7.2）生 没年月日は未詳

清輝の実父

・八重子 生没年月日未詳

清兼の妻のち離婚 清輝の実母

・芳子 天保八年（1837.2.5〜1838.1.25）生 大正十五年（1816）九月九日没

清兼の妻 清輝の継母

・秀子 夭折

清輝の実姉

・綱祐 明治二十年(1887)生 明治四十二年(1910)八月五日没

清輝の異母弟

・正彦 清輝の異母弟

・純子<sup>すま</sup> 生年月日未詳 明治四十二年(1909)十月二十一日没

清輝の異母妹

・辰子 生没年月日未詳 のち益代と改名

清輝の異母妹

・清綱 文政十二年二月十一日(1830.4.13)生 大正六年(1917)三月二十

三日没

清輝の養父 実の伯父

・貞子 天保八年十月(1837.10.29～11.27)生 明治三十七年(1904)七月三十

一日没

清綱の妻 清輝の養母

・久 明治八年(1875)七月生

清輝の妻 明治十九年(1896)六月離婚

・照子 明治六年(1873)六月生 昭和四十五年(1970)二月没

清輝の妻

・清秀 明治六年(1873)二月生 没年月日未詳

清輝の養弟 実の従弟

・直綱 明治十一年(1878)生 没年月日未詳

清輝の養弟、実の従弟

## ②橋口家…もと薩摩国鹿兒島藩士

・千賀子 安政五年正月(1858.2.14～3.14)生 没年月日未詳

清輝の養姉 実の従姉 橋口文蔵の妻

・文蔵 嘉永六年(1853.2.8～1854.1.28)生 明治三十六年(1903)八月十日没

清輝の養姉千賀子の夫君

・兼清 生没年月日未詳

千賀子・文蔵の息子

・直右衛門 生没年月日未詳

文蔵の弟

・傳蔵 天保二年(1831.2.13～1832.2.1)生 文久二年四月二十三日(1862.5.21)

寺田屋事件で斬殺される

清輝の義兄文蔵の叔父 子息は勇馬 孫は丹後

## ③樺山家…もと薩摩国鹿兒島藩士

・資紀 天保八年十一月十二日(1837.12.9)生 大正十一年(1922)二月九日

没

樺山四郎右衛門の養嗣子 清輝の義兄橋口文蔵の叔父

・とも子 弘化三年二月(1846.2.26～3.26)生 昭和三年(1928)七月没

樺山資紀の妻 愛輔の母

・愛輔 慶応元年五月十日(1865.6.3)生 昭和二十八年(1953)十月二十一日

没

清輝の義兄橋口文蔵の従弟

\*資紀とは別系統

・資英 明治元年十一月十七日(1868.12.30)生 昭和十六年(1941)三月十

九日没

樺山資雄の次男

## ④島津家…もと薩摩国鹿兒島藩主の系統

・忠重 明治十九年(1886)十月二十日生 昭和四十三年(1968)四月九日没

・伊楚子 明治二十一年(1888)一月生 昭和四十六年(1971)没

忠重の妻

・康久 明治二十八年(1895)一月生 昭和四十七年(1972)没

忠重の弟

・忠<sup>ただ</sup>濟<sup>なり</sup> 安政二年三月九日(1855.4.25)生 大正四年(1915)八月十九日没

忠重の叔父

・忠<sup>ただ</sup>承<sup>つぐ</sup> 明治三十六年（1903）五月十九日生 平成二年（1990）八月二十六日

沒

忠濟の子息 忠重の従弟

・貴<sup>たか</sup>暢<sup>みつ</sup> 明治二十年(1887)十二月生 昭和二十七年(1952)九月没

鹿兒島島津家の分家

島津家…もと日向国佐土原藩主

忠亮 嘉永二年五月(1849.6.20～7.19)生 明治四十二年(1909)六月没

・健之助 明治十六年(1883)一月生 昭和十二年(1937)八月没

日向国佐土原島津家の分家

⑤ 杉家…もともと長門国山口藩士

・竹二郎 明治二年五月(1870.5.30)生 大正十一年(1913)二月十日没

\* 生没年月日などの情報は本書翰類のほか、霞会館編『昭和修華族家系大成』

昭和五十九年（一九八四）吉川弘文館刊、日本歴史学会編『明治維新人名辞典』  
昭和五十六年（一九八一）吉川弘文館刊、『ウイキペディア』などによる。

\*参考までに各家分けの書翰類作成年次別分布表を作成した(第1表「黒田清輝宛書翰類 家分け差出人年次別分布表」参照)。

差出人

第2表「黒田清輝宛書翰類 差出人一覧」は書翰類の差出人を五十音順に排列し、各人の作成数とそれぞれの作成年月日と発信手段を一覧にしたものである。

各人の作成数は合計欄の数字になる。作成年月日は6桁の算用数字、発信手段はアルファベットで示した。6桁の数字の1・2桁目の17～45は明治、01～12は大正の年次、3・4桁目の01から12は月次、5・6桁目の01から31は日次、各桁の00は未詳を示す。なお、作成年月日未詳の書翰類には、第4表で用いた通しの史料番号を記した。発信手段は6桁の算用数字のあとに、無印は封筒と本文のあるもの、gは封筒あるいは包紙のみ、fは封筒あるいは包紙欠、hは葉書、dは電報を示す。

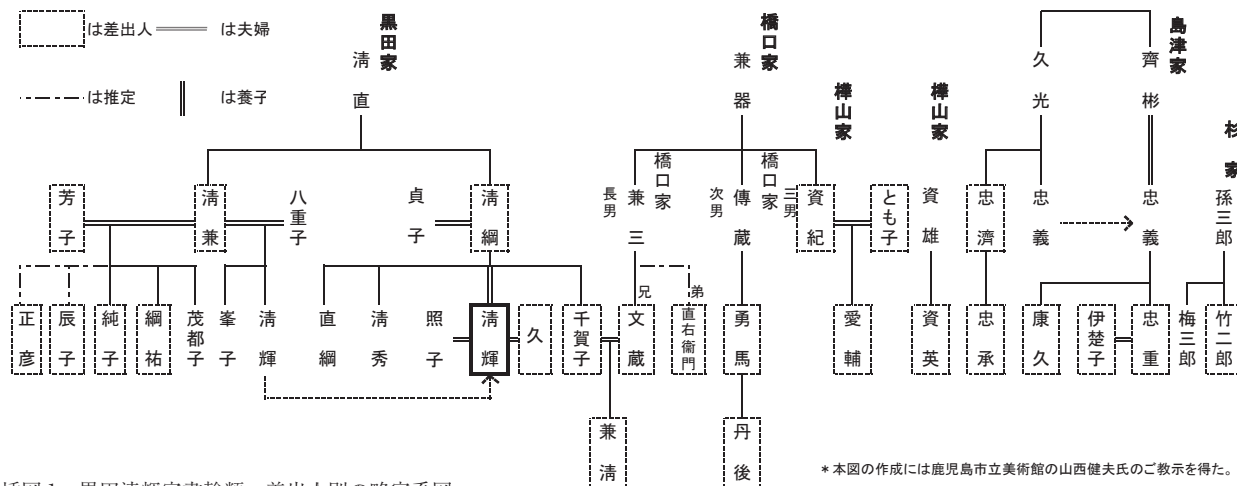


插图1 黒田清輝宛書翰類 差出人別の略家系図

## 受取人

差出人として多いのは、養父黒田清綱が五八通、家令篠塚兼富が四九通、実父黒田清兼が二五通となっている。

第3表「黒田清輝宛書翰類 受取人一覧」は書翰類の受取人を五十音順に排列し、作成年月日を一覧にしたものである。

各人の受取数は合計欄の数字になる。六桁の数字等は前述の差出人一覽と同じである。受取人としては、黒田清輝が二二三点と圧倒的に多い。

目  
録

本書翰類の利便を図るために目録を作成した（第4表「黒田清輝宛書翰類 全体の目録」参照）。

目録中の番号は書翰類の排列順で、一から二五六（釈文では漢数字）までである。

史料番号は写真撮影時に付された算用数字。

差出人は苗字と名前を記し、原則として原史料に用いられている文字（多くは正字Ⅱ旧字体）を使用した。

第1表 黒田清輝宛書翰類 家分け差出人年次別分布表

年 次	樺山家	黒田家	篠塚家	島津家	杉 家	橋口家	合 計
明治 17 年						1	1
明治 18 年						1	1
明治 19 年		12				1	13
明治 20 年		1					1
明治 21 年						2	2
明治 22 年		1					1
明治 23 年							0
明治 24 年				1			1
明治 25 年						1	1
明治 26 年		10					10
明治 27 年		15			3	1	19
明治 28 年	3	23	3		16	4	49
明治 29 年		9	5		4	4	22
明治 30 年			6		1		7
明治 31 年			24			2	26
明治 32 年			4			1	5
明治 33 年							0
明治 34 年		1					1
明治 35 年	1	1	1				3
明治 36 年							0
明治 37 年							0
明治 38 年							0
明治 39 年							0
明治 40 年							0
明治 41 年		2		1		2	5
明治 42 年		3		1			4
明治 43 年	2	8	1			2	13
明治 44 年	1	6		1			8
明治 45 年			1	1			2
大正 2 年		1					1
大正 3 年		1	2			1	4
大正 4 年							0
大正 5 年							0
大正 6 年							0
大正 7 年	2					2	4
大正 8 年			1				1
大正 9 年	2						2
大正 10 年				5			5
大正 11 年	3			5		3	11
大正 12 年				4			4
年次不記	3	6	2	2		1	14
年月不記					4		4
年月日不記	3	1			6	1	11
合 計	20	101	50	21	34	30	256

家分けは当初の区分に従った。  
史料名は、筆者が付けたもので、受取人の所在地を「在…」とし、受取人の名前、同じく差出人の所在地と名前および、書翰・葉書等の媒体で構成し、一部には用途を記した。  
作成年月日は本文中の記載を基本とし、記載のないものについては、消印や記述内容により推定し、可能な限り詳細に記した。

「備考」は史料番号及び作成年月日の補足事項、「主な内容」は該史料に記されている主たる事柄で、詳細はそれぞれの積文を参照されたい。  
美術関連文書についても全体の目録から該当箇所を抽出して目録を作成した（第5表「黒田清輝宛書翰類 美術関連の目録」参照）。同目録には、美術関連文書の通し番号のほかに全体文書の通し番号の欄を設けた。

（ちかまつ こうじ・元文化財情報資料部客員研究員）



第2表 黒田清輝宛書翰類 差出人一覧

差出人 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
樺山愛輔	430203	430216	090101	090414	110216	110303	110425	001215	000916	001112g	11
	No.255										
樺山資紀	440113	070301									2
樺山資英	280429	350101h	No.256 名刺								3
	280405	280907f	No.254g								3
樺山とも子	190429	190723	220604	260428f	260801f	261003	280331f	280331	280407	280408	
	280411	281008	281228f	290114	411115	421022d	421112h	430421	430806d	430806d	
黒田清兼	430807d	430808d	440706	440806	441206	021115d	000513				27
黒田清兼・辰	440515										1
黒田清兼・芳子	341029	411025	421021d	430204	430824	440801	441002				7
黒田清兼・芳子・子供一同	290101										1
黒田清兼・芳子・正彦・道盈・益代	030619										1
	190400f	190513	190701	190709	190820	190827	191007	191111	191125	191216	
	260406	260529f	261116	261116g	261117g	261124	261201	270323	270324	270327h	
黒田清綱	270512	270624	270804	271013	271015f	271019	271027	271108	271123	271128d	
	271205	280319	280329	280411	280525	280610	280705	280710	280712	280718	
	280826	280912	281015	281021	281105	290102	290111	290919	350511h	430209	56
	000411	000830	000905g	000909g	000918g	No.247					
黒田清綱・清兼	270111h										1
黒田すみ子 (純子)	290101										1
黒田正彦	290101										1
黒田綱祐	290101										1
黒田 久	280824f	290108									2
呉服屋松助	410925										1
	280318	280318	280505	290113g	290818	291208	291209d	291230	300107h	300803f	
	300805	300812h	300824	300826g	300829	310120	310212	310304	310308	310314	
篠塚兼富	310319	310324f	310414	310504	310514	310522g	310525h	310527	310608	310611f	
	310616f	310625	310704h	310706	310806	310811h	310816h	310902	320101	320104f	49
	320118g	320624f	350812	430517	450209	030826	030827f	000409	000813f		
篠塚元三	080728h										1
島津伊碁子	101128										1
島津貴暢	421006	441215	450215	110415							4
島津健之助	120912h										1
島津忠重	120927										1
島津忠承	120930										1
島津忠亮	001123										1

島津久實	240101																		1
島津康久	110601																		1
島津忠重家扶	100422	101022		101118	110113	110221	120204												6
島津忠濟家扶	411018																		1
島津家キムラ	100812d																		1
島津家家扶	001227																		1
永山武敏・盛興、島津長丸・健之助	110404																		1
杉 竹二郎	270414	270906	271103	280405	280508	280519d	280521	280522h	280526h	280703h									33
	280706h	280720h	280729h	280804h	280909	280910	280917	280920	281005	290510									
	290529	290823	291119	300302	000004g	000008g	000014	000016	No.246	No.248 名刺									
	No.250	No.251	No.252																
杉 竹二郎・松波	No.253																		1
橋口兼清	430812d	031006	111112																3
橋口兼清・田沼恒雄	111101																		1
橋口 清	431214																		1
橋口しげ	001004																		1
橋口千賀子	190805	280509	280509	281104	281207d	290106	290113	290113	410927	No.249									10
橋口丹後	070113	070200																	2
橋口直右衛門	170705																		1
橋口直右衛門・黒田清輝	180510																		1
橋口文蔵	210503	210707f	250704	270914f	290101	320808													6
橋口正美	110200																		1
橋口勇馬	310616	310707																	2
別府助保	280319																		1
松方正義・樺山資紀・山本権兵衛	070205																		1
— (来翰入れ)	200200																		1
合 計																			256



第3表 黒田清輝宛書翰類 受取人一覧

受 取 人 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合 計
黒田清輝	190400	190429	190513	190701	190709	190723	190805	190820	190827	191007	223
	191111	191125	191216	260406	260428	260529	260801	261003	261116	261116	
	261117	261124	261201	270111	270323	270324	270327	270414	270512	270624	
	270804	270906	270914	271015	271019	271027	271103	271108	271123	271128	
	271205	280311	280318	280318	280319	280319	280329	280331	280405	280405	
	280407	280408	280411	280411	280429	280505	280508	280509	280519	280521	
	280522	280525	280526	280610	280703	280705	280706	280710	280712	280718	
	280720	280729	280804	280824	280826	280909	280910	280912	280917	280920	
	281005	281008	281015	281021	281104	281105	281207	281228	290101	290101	
	290101	290101	290101	290102	290106	290108	290111	290113	290113	290113	
	290114	290510	290529	290818	290823	291119	291208	291209	291230	300107	
	300302	300803	300805	300812	300824	300826	300829	310120	310304	310308	
	310314	310319	310324	310414	310504	310514	310522	310525	310527	310608	
	310611	310616	310616	310625	310704	310706	310707	310806	310811	310816	
	310902	320101	320104	320118	320624	320808	350101	350511	350812	410927	
	411025	411115	421006	421021	421022	421112	430203	430209	430216	430421	
	430517	430806	430806	430807	430808	430812	430824	440413	440515	440706	
	440801	440806	441002	441206	441215	450209	450215	021115	030827	031006	
	070113	070205	070301	090101	090414	100422	100812	101022	101118	101128	
	110113	110216	110221	110200	110303	110415	110425	110601	120912	120927	
	120930	001215	000409	000411	000513	000813	000830	000905	001112	001123	
	000004	000008	000014	000016	No. 246	No. 247	No. 249	No. 250	No. 251	No. 252	
	No. 253	No. 254	No. 255								
	黒田清輝・黒田清秀	271013									
	黒田清輝・黒田綱祐	430204									
	黒田清輝・てる子（照子）	341029	30619	111101	111112	000916					
	黒田清輝様執事① 家扶②・③	① 080728	② 110404	③ 120204							
	黒田清兼	290917									
	黒田清綱	170705	180510	210503	210707	240101	250704	411018	001227		
	黒田貞子	220604	310212								
	篠塚殿	000909									
	白瀧幾之助	431214									
	橋口千賀子	410925									
	おぼゞ	001004									
	バルダン夫人	280907									
	神田税務署	030826									



第4表 黒田清輝宛書翰類 全体の目録

番号	史料番号	差出人	家分け	史料名	作成年月日	備考および主な内容
1	01-004	橋口直右衛門	橋口家	在東京黒田清綱宛在パリ橋口直右衛門書翰	明治 17 年 7 月 5 日	直右衛門は清輝の義弟（養姉千賀子の夫文蔵の弟）。フランス留学当初の清輝の様子を伝える
2	02-078	橋口直右衛門 黒田清輝	橋口家	在東京黒田清綱宛在パリ橋口直右衛門・黒田清輝の紹介状	明治 18 年 5 月 10 日	帰朝する日本商人大塚氏が持参した清綱宛の紹介状
3	2-53-1	黒田清綱	黒田家	在パリ黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 19 年 4 月□日	日次は4月20日以前と推定。学資金 180 円は横浜為替にて送付する 清輝の美術への方向転換に関する相談に対し、もう一考を要すという返答 清輝の実妹の「おみね（峯子）」の婚姻成立を伝える
4	2-53-2	黒田清兼	黒田家	黒田清輝宛黒田清兼書翰	明治 19 年 4 月 29 日	延引していた「おみね」の婚約が無事終了
5	2-58	黒田清綱	黒田家	在パリ黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 19 年 5 月 13 日	送付された亡平吉の肖像画の出来映え良し。清輝からの依頼品を送付
6	2-68	黒田清綱	黒田家	在パリ黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 19 年 7 月 1 日	学資金送付は在パリの外務書記官原 敬氏の東京宅を通して行う 依頼の古墨等を欧州各国巡回使黒田清隆氏の随行員に託す
7	8-3-1	黒田清綱	黒田家	在パリ黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 19 年 7 月 9 日	画学修業の決意を敬承、実父や橋口文蔵は賛成、橋口直右衛門は反対の意向 清輝宛清綱の書翰に同封したものか
8	2-77	黒田清兼	黒田家	在パリ黒田清輝宛在東京黒田清兼書翰	明治 19 年 7 月 23 日	『日記』1 - 65 頁の9月12日条に明治 19 年 7 月 23 日付の本書翰の記載あり 上束中の実父清兼が『東京の留守宅等の状況と「おみね」の近況を伝える
9	01-011	橋口千賀子	橋口家	在パリ黒田新太郎（清輝）宛在東京橋口千賀子書翰	明治 19 年 8 月 5 日	作成日次は明治 19 年 8 月 5 日以前 東京に帰省中の養姉千賀子が近況を伝える
10	2-79	黒田清綱	黒田家	在パリ黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 19 年 8 月 20 日	清綱宛清輝の書翰（『日記』1 - 61・62 頁）への返事 学資金は原 敬氏留守宅を通じて送付する
11	2-84	黒田清綱	黒田家	在パリ黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 19 年 8 月 27 日	依頼の古錦切類と花菖蒲の種子を送付。菖蒲に関する詳しい説明 依頼の古錦切類と花菖蒲の種子とともに「新古今和歌集」を送付
12	2-98	黒田清綱	黒田家	在パリ黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 19 年 10 月 7 日	『日記』1 - 72 頁の明治 19 年 11 月 19 日付清綱宛書翰に本書翰の記述あり 帰朝した大山綱介より近況を聞いた。清輝の徴兵猶予の手続きはほぼ終了 学資金送付は今後横浜の「鰯屋」に委託
13	8-111-1	黒田清綱	黒田家	在パリ黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 19 年 11 月 11 日	文中の9月24日付のブリュッセルよりの書状は『日記』1 - 69 頁に記載あり 依頼の古錦切類等を入れた箱は落手したか、同箱の「新古今集」は詠歌の参考 に
14	2-5	黒田清綱	黒田家	在パリ黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 19 年 11 月 25 日	文中の「本（先か）月八日之葉書」は『日記』1 - 70 頁に記載あり 古錦切類等を入れた箱が未着なら、横浜通運会社に問い合わせをする 徴兵猶予の件、教師の証書は不要、全権公使の証書で事足りた
15	2-1	黒田清綱	黒田家	在パリ黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 19 年 12 月 16 日	古錦切類等を入れた箱が到着の由安堵した 学資金 180 円は横浜の「鰯屋」に為替取組みを委託、その券面を送付した 文中の10月15日の書翰は『日記』1 - 70 頁に記載あり。文面の清輝の詠歌 を批評
16	2-46	—	黒田家	来翰入れ（1886 年夏頃～87 年 2 月）	～明治 20 年 2 月 - 日	包紙のみ
17	31-013	橋口文蔵	橋口家	在東京黒田清綱宛在パリ橋口文蔵書翰	明治 21 年 5 月 3 日	清輝が熱心に修業しているのを実見した。教師・友人の評判も良い

『日記』は『黒田清輝日記』、「上束」は東京に来ることを示す。

18	31-024	橋口文藏	橋口家	在東京父上（黒田清綱）宛在（ベルリ）ン橋口文藏書翰	明治 21 年 7 月 7 日	封筒なし 年次不記であるが№17 の 31-013 の文面から明治 21 年と推定 欧州・アルジェリア巡覧の報告。原 敬書記官に預け置いていた清輝の学資金は他 日黒田家から返済するように
19	4-32	黒田清兼	黒田家	在東京黒田貞子宛在大分黒田清兼書翰	明治 22 年 6 月 4 日	水損開披不能、透かし映りの文字は「姉上様 兼清 無事」
20	36-036	嶋津久實	嶋津家	在東京黒田清綱宛在鹿児島嶋津久實書翰	明治 24 年 1 月 1 日	年賀状
21	08-002	橋口文藏	橋口家	在東京黒田清綱宛在桑港橋口文藏書翰	明治 25 年 7 月 4 日	米国出張の航海や現地の状況、米国留学中の清秀（清綱の二男）の近況
22	47-61	黒田清綱	黒田家	在（パリ）黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 26 年 4 月 6 日	文中の 2 月 16 日の書翰は『日記』1 - 312 頁に記載あり 共進会出品の結果見極めのためパリ滞在延長を了解、費用は（パリ）に送金する 帰途米国滞在の費用は留学中の清秀の許に送る
23	47-59	黒田清兼	黒田家	黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	明治 26 年 4 月 28 日	清輝の帰朝の予定を聞き、指折り待っている 清輝の長期留学につき清綱の御配慮には恐縮している
24	47-57	黒田清綱	黒田家	歸國途次の黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 26 年 5 月 29 日	文中の 4 月 14 日の書翰は『日記』1 - 317 頁に記載あり 帰途の費用は清秀に送付した。清秀同行の帰朝を提案
25	47-47	黒田清兼	黒田家	黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	明治 26 年 8 月 1 日	昨日清輝帰朝の電報を受取った。近日中の帰省を待っている
26	48-10	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	明治 26 年 10 月 3 日	東京宅に着いた清兼からの書翰を清綱が京都に転送したものの 清綱から清輝への家政譲渡の件承知した。清輝の帰省を待っている
27	47-79	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 26 年 11 月 16 日	風邪に罹ったが全快し、箕町邸に戻った
28	47-77	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱小包送票	明治 26 年 11 月 16 日	封筒のみ
29	47-68	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 26 年 11 月 17 日	
30	48-6	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 26 年 11 月 24 日	帰家して療養していた直綱（清綱の三男）は全快、帰塾した 京都府知事中山弘に面会されたとのこと、諸事都合の由安堵した 明日から議会が始まるが、うるさいことが多い
31	47-73	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 26 年 12 月 1 日	「清水の圖」「周山之秋景色」の進捗具合は如何 12 月中旬には清兼が上東、途次京都に立ち寄るかも知れない 貴族院より清輝に副議長東久世通禧の肖像油画揮毫の依頼があった
32	48-27	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝宛在鎌倉黒田清綱・清兼葉書	明治 27 年 1 月 11 日	明 12 日に帰東する
33	48-3	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝宛在鎌倉黒田清綱書翰	明治 27 年 3 月 23 日	清輝に夜は中二階で休息し、番の者を配置するように
34	48-2	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝宛在鎌倉黒田清綱書翰	明治 27 年 3 月 24 日	貴族院より依頼の額面をこの 5 月の議会開会時に掲出できるように画策する 額は当方で調達する
35	48-25	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝宛在鎌倉黒田清綱葉書	明治 27 年 3 月 27 日	明後 29 日に帰東予定、鎌倉への新聞送達は明日まで
36	46-005	杉竹二郎	杉家	在東京黒田清輝宛在横浜杉竹二郎書翰	明治 27 年 4 月 14 日	全文フランス語
37	47-50	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝宛在鎌倉黒田清綱書翰	明治 27 年 5 月 12 日	家令篠塚氏に屋敷のことを相談したので、聞くように 篠塚氏に貴族院開院式出席するので、病氣届けを出すように伝えてくれ
38	48-14	黒田清綱	黒田家	在横浜黒田清輝宛在鎌倉黒田清綱書翰	明治 27 年 6 月 24 日	御壮健画事研究大慶。過日の地震鎌倉は東京ほどではなかった しばらくは横浜に滞在するように、費用は送金する
39	48-26	黒田清綱	黒田家	在鎌倉黒田清輝宛在東京黒田清綱葉書	明治 27 年 8 月 4 日	依頼の着物・単物・帯等は本日郵便小包にて送付した
40	07-012	杉竹二郎	杉家	在大磯黒田清輝宛在箱根杉竹二郎書翰	明治 27 年 9 月 6 日	9 日に帰東するので、それまでに東京へ帰るように

41	47-029	橋口文藏	橋口家	在東京黒田清輝宛在桑港橋口文藏書翰	明治 27 年 9 月 14 日	ほとんどがフランス語
42	47-4	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝・清秀宛在廣嶋黒田清綱書翰	明治 27 年 10 月 13 日	広島大本営への出張途次の模様。今朝大本営参営 広島は混雑しているが東京で聞いていたほどではない 本日より広島で貴族院開会。明日呉港へ軍艦見物の予定 上野公園の展覧会出品の絵画の評判を新聞切抜きで見た 広島からの帰途岡山で備前・備中・美作三国の大歌会に参加する
43	47-22	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝宛在廣嶋黒田清綱書翰	明治 27 年 10 月 15 日	
44	47-27	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝宛在廣嶋黒田清綱葉書	明治 27 年 10 月 19 日	呉鎮守府出張、宮島行など広島滞在の状況を伝える 岡山での大歌会の様子。明朝大阪へ出立。当月の諸払いはい直綱名義の通帳で 天長節式典に不参届けを宮内省へ提出を依頼
45	7-15	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝宛在岡山黒田清綱書翰	明治 27 年 10 月 27 日	
46	07-061	杉竹二郎	杉家	黒田清輝宛杉竹二郎書翰	明治 27 年 11 月 3 日	清輝へ杉家来宅を依頼、従軍とはなかなか面白い 日清戦争従軍のため広島滞在中の清輝への書翰。今朝高島氏に面会、委曲を依頼 掛物二幅落手、真偽はともかく頗る傑作 展覧会出品の絵画を批評した新聞切抜きを同封した
47	7-21	黒田清綱	黒田家	在廣嶋黒田清輝宛在東京黒田清綱書	明治 27 年 11 月 8 日	電文「元気を折る」（清輝日清戦争従軍につき）
48	7-26	黒田清綱	黒田家	在廣嶋黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 27 年 11 月 23 日	
49	7-27	黒田清綱	黒田家	在廣嶋黒田清輝宛在鎌倉黒田清綱電報	明治 27 年 11 月 28 日	清輝清国渡航、知己の山階宮と同船は喜ばしい。『日記』2 - 352 頁の明治 27 年 11 月 27 日条以降に記載あり 清国には珍しい山色風景があるので、高尚な意匠が浮かぶことでしょう
50	7-28	黒田清綱	黒田家	在清國旅順口黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 27 年 12 月 5 日	封筒なし。No.52 の 09-039-02 の 001 ~ 005 の書翰で家扶により転送されたものか 清輝の婚儀を祝す実父の書翰
51	9-39-006	黒田清兼	黒田家	在京都黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	明治 28 年 3 月 11 日	
52	9-39-001 ~ 005	篠塚兼當	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京篠塚兼當書翰	明治 28 年 3 月 18 日	No.53 の 09-039-02 の①と同一書翰。京都博覧会出品作品を納めた大箱の運賃の件 博覧会事務からと長田氏および清兼殿よりの書翰を同封した
53	09-039- 02 の①	篠塚兼當	篠塚家	在京都黒田清輝宛在東京篠塚兼尚書翰	明治 28 年 3 月 18 日	No.52 の 09-039-001 ~ 005 と同一書翰。京都博覧会出品作品を納めた大箱の運賃 の件。博覧会事務からと長田氏および清兼殿よりの書翰を同封した
54	13-127-1	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 28 年 3 月 19 日	清輝・おばさま（清輝の妻久の母）京都安着安堵。京都博覧会開期切迫につ き御繁忙を遠察する。出発の翌日合田氏と久米桂一郎氏来邸、座敷の飾物を撮 影した
55	09-039 * ①	別府助保	篠塚家	在京都黒田清輝宛在東京別府助保書翰	明治 28 年 3 月 19 日	史料番号は 09-039-02 の②。封筒のみ
56	13-127-2	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 28 年 3 月 29 日	京都博覧会開場切迫につき御繁忙を遠察 下関における李鴻章襲撃事件により議院開院式一両日延引 清兼近日中再上東、途次京都に立ち寄るかも知れない
57	9-58	黒田清兼	黒田家	在京都黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	明治 28 年 3 月 31 日	婚礼披露宴のあと、新妻お久殿とその母同行の京都出張は好ましいことだ 葦田長傳氏帰東の途次京都に立寄り、博覧会見学を希望、応対をよろしく
58	09-043	杉竹二郎	杉家	在京都黒田清輝宛杉竹二郎書翰	明治 28 年 4 月 5 日	本文フランス語
59	09-031	樺山とも子	樺山家	在京都黒田清輝宛在東京樺山とも子書翰	明治 28 年 4 月 5 日	本日「ハム」一本送付した
60	13-128-1	黒田清兼	黒田家	在京都黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	明治 28 年 4 月 7 日	封筒はNo.61 の 13-128-2 と共通 鹿児島神宮修禱の件で東京へ出張、途次京都へ立寄るので宿所の手配を頼む 神戸に着船次第京都に向かう
61	13-128-2	黒田清兼	黒田家	在京都黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	明治 28 年 4 月 8 日	封筒はNo.60 の 13-128-1 と共通、No.60 の書翰の追加分か 昨夜清輝からの電報とお久殿よりの書状落手した。写真四枚届く

62	8-21	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在鎌倉黒田清綱書翰	明治 28 年 4 月 11 日	博覧会の盛況新聞報道で承知、出品の絵画議論の未陳列できたのは愉快だ 博覧会見学に出向きたいが
63	9-73	黒田清兼	黒田家	在京都黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼葉書	明治 28 年 4 月 11 日	本日出発の予定だったが、14 日鹿児島出航に変更する
64	09-066	樺山資英	樺山家	在京都黒田清輝宛在京都樺山資英書翰	明治 28 年 4 月 29 日	岳父とともに京都に滞在中、拜眉したいが都合は如何
65	09-09-01	篠塚兼當	篠塚家	在京都黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 28 年 5 月 5 日	区役所より出品賃の割引証文を交付されたので送付した
66	13-149	杉竹二郎	杉家	在京都黒田清輝宛在東京杉竹二郎葉書	明治 28 年 5 月 8 日	本文フランス語
67	10-028-01	橋口千賀子	橋口家	在京都黒田清輝宛在東京橋口千賀子書翰	明治 28 年 5 月 9 日	鹿児島より清兼が上東、四方山話をした。「だるま五人」の扱いに困っている 夫・文藏の台湾の在所書付 (No. 68 の 10-028-02) を同封
68	10-028-02	橋口千賀子	橋口家	橋口文藏滞在所書付	明治 28 年 5 月 9 日	No. 67 の 10-028-01 の関連書付か
69	10-054	杉竹二郎	杉家	在京都黒田清輝宛在東京杉竹二郎電報	明治 28 年 5 月 19 日	電文「明日 5 時家に居ろ」
70	09-050	杉竹二郎	杉家	在京都黒田清輝宛在京都杉竹二郎書翰	明治 28 年 5 月 21 日	和歌山に行き、明日か明後日帰るので宇治へ行かなければ俵屋へ知らせてくれ
71	09-090	杉竹二郎	杉家	在京都黒田清輝宛在和歌村杉竹二郎葉書	明治 28 年 5 月 22 日	和歌村は和歌山県海辺郡。本文フランス語
72	10-44	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 28 年 5 月 25 日	昨日差出しの書留着いたか
73	09-089	杉竹二郎	杉家	在京都黒田清輝宛在大阪杉竹二郎葉書	明治 28 年 5 月 26 日	本文フランス語
74	8-14	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 28 年 6 月 10 日	博覧会の鉱物館・美術館に出品する画の抽出を久米氏に依頼し、郵送した 上東していた清兼本日帰途に就き、明後日京都着の予定 上東している鹿児島福崎氏とともに京都へ行きたい
75	10-069	杉竹二郎	杉家	在京都黒田清輝宛在東京杉竹二郎葉書	明治 28 年 7 月 3 日	本文フランス語
76	10-40	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 28 年 7 月 5 日	福崎氏と滞京中世話になった。帰路伊勢神宮等を訪れ、昨日帰東。金州からの 行李落手、作品はそのまま格護。京都移住を考えているので、隠宅を捜してくれ
77	10-070	杉竹二郎	杉家	在京都黒田清輝宛在塩原杉竹二郎葉書	明治 28 年 7 月 6 日	本文フランス語
78	10-36	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 28 年 7 月 10 日	久米氏泊り込みで画書を作成している。井町へ引越す準備をしている 博覧会褒賞式後帰東の際、家族連れなので暑い時期を避けて秋まで延引しては
79	10-38	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 28 年 7 月 12 日	昨日博覧会褒賞式は済んだだろうから、帰東の期日を知らせてくれ
80	10-34	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 28 年 7 月 18 日	帰東は婆々様等多人数で道中厳しいので 秋まで延引のこと請承 橋口文藏氏近日中台湾より帰東の予定
81	10-065	杉竹二郎	杉家	在京都黒田清輝宛在東京杉竹二郎葉書	明治 28 年 7 月 20 日	本文フランス語
82	10-068	杉竹二郎	杉家	在京都黒田清輝宛在東京杉竹二郎葉書	明治 28 年 7 月 29 日	本文フランス語
83	09-140	杉竹二郎	杉家	在京都黒田清輝宛在東京杉竹二郎葉書	明治 28 年 8 月 4 日	本文フランス語
84	9-120-2	黒田久	黒田家	在東京黒田清輝宛在鎌倉黒田久書翰	明治 28 年 8 月 24 日	封筒なし。帰東の途次長良川・養老の滝等を見て鎌倉に滞在中 明朝 6 時東京着。送金感謝
85	9-120-1	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝宛在鎌倉黒田清綱書翰	明治 28 年 8 月 26 日	箱根方面への旅、各温泉場混雑、小田原付近コレラ流行で、決行しかねる 封筒なし。ベルダン夫人宛書翰の仏語訳を清輝に依頼したもの
86	09-096	樺山とも子	樺山家	在フランスベルタン夫人宛樺山とも子書翰案	明治 28 年 9 月 7 日	樺山とも子の夫資紀は台湾渡航。息子の愛輔は独国より帰国、川村伯の娘と結婚 神田の学校は昨年の地震で壊れたが、修築した
87	09-095	杉竹二郎	杉家	在東京黒田清輝宛在神戸杉竹二郎書翰	明治 28 年 9 月 9 日	これから仏国に向かう 清輝の洋行の件を親爺(杉孫七郎)に頼んであるので会いに行くように



88	09-097	杉 竹二郎	杉 家	在東京黒田清輝宛在長崎杉 竹二郎書翰	明治 28 年 9 月 10 日	昨日神戸出航、今夜長崎着。次は上海から手紙を出す 親爺に清輝の仏国行依頼の手紙を送った
89	9-137	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝宛在鎌倉黒田清綱葉書	明治 28 年 9 月 12 日	明日帰東。新橋駅に人力車を 5 輛手配してくれ
90	10-055	杉 竹二郎	杉 家	在東京黒田清輝宛在香港杉 竹二郎書翰	明治 28 年 9 月 17 日	また親爺に手紙を書いた。清輝と一緒にフランスに居れば面白いだろう 久米桂一郎はどうしている
91	10-004	杉 竹二郎	杉 家	在東京黒田清輝宛在西貢杉 竹二郎書翰 西貢＝サイゴン	明治 28 年 9 月 20 日	18 日正午香港出航。19 日は終日航海 親爺に二、三度手紙を書いた。20 日サイゴン着
92	10-058	杉 竹二郎	杉 家	在東京黒田清輝宛在アデン杉 竹二郎書翰	明治 28 年 10 月 5 日	シンガポール・コロンボを経てアデンに着いた。あと 10 日でパルセイユに着く 親爺に会ってフランス行のことを話したか
93	10-31	黒田清兼	黒田家	在京都黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	明治 28 年 10 月 8 日	清輝の帰東の時期を知らせてくれ 吉川嘉平が渡台につき、該地の状況を帰朝中の橋口文藏から直接聞かせたい
94	10-27	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 28 年 10 月 15 日	京都の居を探しの件岡田氏の子息の案内で実見した結果が芳しくないようだから 現況の小谷邸のままで仕方がないだろう。樋口探月の妻病死の報あり
95	13-126	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 28 年 10 月 21 日	京都の居を探索の件、貸家賃高騰など条件が合わないとのこと詠承、気長く待つ 昨日橋口文藏の家族等と上野博覧会を久米氏の案内で観覧した
96	10-019	橋口千賀子	橋口家	在京都黒田清輝宛在東京橋口千賀子書翰	明治 28 年 11 月 4 日	10 月 28 日母上・お婆々様東京安着。父上（清綱）は 10 月 27 日筈町へ引移ら れた 先日私の家族は父上と上野博覧会見学に行った。文藏の出発期日は今のところ 不明
97	48-12	黒田清綱	黒田家	黒田清輝宛黒田清綱書翰	明治 28 年 11 月 5 日	直綱（清綱三男）養家相続の件、鹿児島県へ提出する書類残して置いてくれ
98	10-059	橋口千賀子	橋口家	在京都黒田清輝宛在東京橋口千賀子電報	明治 28 年 12 月 7 日	電文「文藏発ったか」
99	13-35	黒田清兼	黒田家	在京都黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	明治 28 年 12 月 28 日	書面受取ったが、鹿児島神宮昇格の件で多忙で返事が遅れた 家政相続後初めての節季で多用のこと遠察している
100	13-005	橋口文藏	橋口家	在京都黒田清輝宛在臺灣橋口文藏書翰	明治 29 年 1 月 1 日	年始の挨拶。帰任の際、種々馳走になり感謝
101	13-10-03	黒田綱祐	黒田家	兄上（黒田清輝）宛（黒田）綱祐書翰	明治 29 年 1 月 1 日	No.112 の 13-10-001 ～ 002、006 ～ 008 の書翰に同封 年始の挨拶
102	13-10-04	黒田すみ子	黒田家	兄上（黒田清輝）宛（黒田）すみ子書翰	明治 29 年 1 月 1 日	No.112 の 13-10-001 ～ 002、006 ～ 008 の書翰に同封 年始の挨拶
103	13-10-05	黒田正彦	黒田家	兄上（黒田清輝）宛（黒田）正彦書翰	明治 29 年 1 月 1 日	No.112 の 13-10-001 ～ 002、006 ～ 008 の書翰に同封 年始の挨拶
104	13-31	黒田清兼ほか	黒田家	黒田清輝宛黒田清兼・芳子・子供一同書翰	明治 29 年 1 月 1 日	No.112 の 13-10-001 ～ 002、006 ～ 008 の書翰に同封 年始の挨拶
105	8-124	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在鎌倉黒田清綱書翰	明治 29 年 1 月 2 日	鹿児島島の清兼へ歳暮祝儀として金 5 円為替で送付した 12 月 30 日から鎌倉に滞在している。
106	13-021	橋口千賀子	橋口家	在京都黒田清輝宛在東京橋口千賀子書翰	明治 29 年 1 月 6 日	出京中御世話になり感謝。金 300 円貸して頂いたが、もう 100 円拝借したい
107	13-27	黒田 久	黒田家	在京都黒田清輝宛在鎌倉黒田久書翰	明治 29 年 1 月 8 日	市税、三井銀行より受取り、納入した
108	13-7	黒田清綱	黒田家	在京都黒田清輝宛在東京黒田清綱書翰	明治 29 年 1 月 11 日	鹿児島島の清兼よりの書状を同封した 祇園の安居神社・社司より売邸の図面が届いた、以前岡田氏が案内した物件と同 じものようだ（No.94 の 10-27 参照）
109	13-25	橋口千賀子	橋口家	在京都黒田清輝宛在東京橋口千賀子書翰	明治 29 年 1 月 13 日	No.110 の 13-25-02 と同一 お金拝借の件、100 円は手当てきたので 300 円御貸し頂きたい 息子の兼清病気に罹ったが、快方に向かっている



110	13-25-02	橋口千賀子	橋口家	在京都黒田清輝宛在東京橋口千賀子書翰	明治 29 年 1 月 13 日	No.109 の 13-25 と同一
111	13-032	篠塚兼當	篠塚家	在京都黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 29 年 1 月 13 日	封筒のみ
112	13-10-*	黒田清兼	黒田家	在京都黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	明治 29 年 1 月 14 日	*史料番号は 13-10-001 ～ 002、006 ～ 008 京都で超歳、勉強に励まれている由承知した 東京へ帰家したら、家政向良く下知するように パリも清輝が一緒だと面白いのだが。こちらには自然の分かる奴がいらない 「サロン」や「シヤレドコルス」に行った、面白い絵が沢山あったのでカタログ を送る 西園寺氏から頼まれた絵は出来上がったか
113	08-131	杉竹二郎	杉家	在東京黒田清輝宛在パリ杉竹二郎書翰	明治 29 年 5 月 10 日	
114	08-136	杉竹二郎	杉家	在東京黒田清輝宛在パリ杉竹二郎書翰	明治 29 年 5 月 29 日	清輝が美術学校の教師になったことは悪くはなからう 清輝の仏国行の話は駄目かも。「サロン」の目録を送った、久米にも見せてくれ
115	14-020	篠塚兼當	篠塚家	在大磯黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 29 年 8 月 18 日	書留 奥棟は清輝が樺山伯依頼の画製作のため大磯に滞在していることを承知さ れている。金 30 円を為替で送った。松方正作氏が暇乞いに来た 清輝が造った庭の写真を送ってくれ、庭改造は『日記』2 - 440 頁の明治 29 年 6 月 24 日条にあり 週に二、三度 Bird のアトリエに行き、日本絵の講釈をしている 早くパリに帰りたいが、梅公（杉竹二郎の弟梅三郎）が来るのでロンドンに留 まる
116	08-137	杉竹二郎	杉家	在東京黒田清輝宛在イギリス杉竹二郎書翰	明治 29 年 8 月 23 日	
117	29-100	黒田清綱	黒田家	在鹿児島黒田清兼宛在東京黒田清綱書翰	明治 29 年 9 月 19 日	直綱後見解除の届けを出すため別紙に署名・捺印を請う
118	11-307	杉竹二郎	杉家	在東京黒田清輝宛在パリ杉竹二郎書翰	明治 29 年 11 月 19 日	「白馬会」とはどのような意味か、明治美術会の向こうを張ってのものか、面白い ことをやっているな
119	14-030-01	篠塚兼當	篠塚家	在京都黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 29 年 12 月 8 日	書留 金 100 円を為替で送付した。久米氏より美術学校の月給を受取った
120	14-030-02	篠塚兼當	篠塚家	在京都黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當電報	明治 29 年 12 月 9 日	電文「サノより金 50 円取る、送ろうか」
121	13-202	篠塚兼當	篠塚家	在大原黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當葉書	明治 29 年 12 月 30 日	日付：あるいは 12 月 31 日か。大原は千葉県。葉巻煙草を小包で送った
122	13-206	篠塚兼當	篠塚家	在大原黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當葉書	明治 30 年 1 月 7 日	久保田鼎氏の令息三郎氏死去、悔状を出した。明八日の美術学校の不参届差出す 今年初めから東洋語学校で日本語を教えている
123	12-007	杉竹二郎	杉家	在東京黒田清輝宛在パリ杉竹二郎書翰	明治 30 年 3 月 2 日	「白馬会」の名称は象徴的な意味かと思っていたが「濁酒」のことか、旧派の奴 等へこますのは面白い。「小督」の絵、仕上がったら写真を送ってくれ 年次は No.125 の 13-167-01 による。庭木の刈込みを植木屋に頼んでよいか
124	13-167-02	篠塚兼當	篠塚家	在箱根黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 30 年 8 月 3 日	『反省雑誌』『世界之日本』を送付したあとに、『反省雑誌』2 部と菓子折が届け られた
125	13-167-01	篠塚兼當	篠塚家	在箱根黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 30 年 8 月 5 日	注文の『国華』93 冊今朝届いた。1 冊 1 円のところ、1 冊につき 5 銭位は値引 きとのこと
126	13-204	篠塚兼當	篠塚家	在箱根黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當葉書	明治 30 年 8 月 12 日	左官屋へ 31 円 80 銭支払ってよいか、植木屋・学習院学資金等は月次の払いに する
127	13-169	篠塚兼當	篠塚家	在箱根黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 30 年 8 月 24 日	書留 封筒のみ
128	13-168	篠塚兼當	篠塚家	在箱根黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 30 年 8 月 26 日	
129	13-170	篠塚兼當	篠塚家	在箱根黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 30 年 8 月 29 日	作成年月日：あるいは 8 月 30 日か 封筒のみ

130	15-040	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 1 月 20 日	依頼の葉巻煙草・煎餅を小包にて送付。納所（マツ）氏からの書状同封
131	15-039	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田貞子宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 2 月 12 日	三郎様の衣服染め直し、形骸で見立ててくれ。新納時保氏入来、届物持参される
132	32-071	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 3 月 4 日	三年町の九鬼邸を尋ねた。「三同社」への対応をうかがいたい 「やまと新聞」以後まとめて送付する
133	12-052	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 3 月 8 日	「白馬会」の物品を小林文七氏に貸渡す。明後日所得税を納付する 建物会社と至急物件を見分するように取決め、今日社員が来るのを待つ
134	12-067	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 3 月 14 日	一昨日建物会社見分し、地所売却代 4,500 円の由 三菱銀行・三井銀行が現今貸付をやめた由
135	12-064	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 3 月 19 日	地所売却代金手取り 4,365 円で約定書を取替した。物件引渡しは 4 月 20 日
136	15-082 -02	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 3 月 24 日	封筒のみ
137	12-041	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 4 月 14 日	病気の文部大臣を見舞った。逗子の養神亭への払金 4 円 30 銭とコピーを送付 した
138	15-014	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 5 月 4 日	申付けの公債証書日本銀行へ払い、郵船会社へ払込む 戸田謙二氏より書状とともに絵画 2 封到着したが、送付するか
139	15-008	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 5 月 14 日	岡島氏居宅立退きの件、取紛れにつき代人を立てる
140	15-013	篠塚兼當	篠塚家	黒田清輝宛家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 5 月 22 日	封筒なし。金子氏からの持参金 10 円は、奥方に託すので御受取下さい 6 月 1 日の華族会館創立式に不参の旨宮内省に届ける
141	15-032	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 5 月 25 日	5 月 29 日の才藏様御祭につき天満宮神主に来宅依頼
142	15-015	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 5 月 27 日	辰野金吾氏より前大学総長のポートレート作成の打合せの日次問合せあり 郵船会社の株配当の通知あり
143	15-012	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 6 月 8 日	建物会社員来宅、通常の方法では立退かないので、屋根や壁を壊す事も。警察 にも伝える
144	15-020	篠塚兼當	篠塚家	黒田清輝宛家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 6 月 11 日	封筒なし。建設会社より岡島氏立退きについては黒田家の責任で交渉するよう に要請があり、岡田氏に依頼
145	15-024	橋口勇馬	橋口家	黒田清輝宛在東京橋口勇馬書翰	明治 31 年 6 月 16 日	依頼したいことがあり、参観したが不在なので都合を知らせてくれ
146	15-022	篠塚兼當	篠塚家	黒田清輝宛家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 6 月 16 日	封筒なし。橋口勇馬氏二度来邸、失念した事があるという事で封状 (No.145 の 15-024) を託された
147	15-005	篠塚兼當	篠塚家	黒田清輝宛家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 6 月 25 日	封筒なし。岡島氏立退きの件、松岡氏が先方の弁護士に費用 30 円を要するとの 事、御返事願いたい
148	28-120	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 7 月 4 日	美術学校教務掛より明日教員会開催の通知あり、逗子滞在中の旨を伝える
149	15-004	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 7 月 6 日	松岡氏を尋ねたが横浜出張中、謝儀の件は安藤氏に問い合せて下さい 区役所より税金通知が来たので納める
150	15-023	橋口勇馬	橋口家	黒田清輝宛在東京橋口勇馬書翰	明治 31 年 7 月 7 日	所得税について訂正の有無について問い合わせあり
151	12-066	篠塚兼當	篠塚家	在日光黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 8 月 6 日	元陸軍歩兵曹長松原義七氏画業修業志望につき、本人との面会を請う
152	12-060	篠塚兼當	篠塚家	在日光黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 8 月 11 日	松原義七氏の件、合田氏に相談したが、年齢が高み難しい由
153	12-095	篠塚兼當	篠塚家	在日光黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 8 月 16 日	欧文の書翰到来、日光へ転送するか否か 東京府より仏国博覧会出品指令書を渡された

154	16-012	篠塚兼當	篠塚家	在日光黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 31 年 9 月 2 日	月次払い、臨時払いの明細を送付
155	16-018	篠塚兼當	篠塚家	在靜浦黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 32 年 1 月 1 日	靜浦は静岡県。年始葉書到来人名：淺井忠・田中阿歌磨・岡倉覺三など
156	16-039	篠塚兼當	篠塚家	黒田清輝宛家令篠塚兼當書翰	明治 32 年 1 月 4 日	封筒なし。年始葉書到来人名：追加、藤島武二・結城貞松など 【日記】2526 頁の明治 32 年 1 月 11 日条に年始状に返事を書いた旨の記載あり
157	16-024-03	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 32 年 1 月 18 日	封筒のみ
158	15-007	篠塚兼當	篠塚家	黒田清輝宛家令篠塚兼當書翰	明治 32 年 6 月 24 日	封筒なし 臨時博覧会事務局よりパリ博覧会出品規則等到来 岡島氏居宅立退きの件、まだ話がつかない
159	31-054	橋口文藏	橋口家	在東京黒田清輝宛在鎌倉橋口文藏葉書	明治 32 年 8 月 8 日	鎌倉滞在満喫している
160	19-5	黒田清兼 芳子	黒田家	在東京黒田清輝・てる子宛在鹿児島黒田清兼・芳子書翰	明治 34 年 10 月 29 日	もと子（清輝の異母妹）死去、葬儀無事済む、弔辭・葬祭料の送付を感謝する
161	11-098	樺山資英	樺山家	在東京黒田清輝宛在東京樺山資英葉書	明治 35 年 1 月 1 日	年賀状
162	11-46	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝宛在伊香保黒田清綱葉書	明治 35 年 5 月 11 日	磯部温泉に二泊後、伊香保温泉に着いた
163	21-128	篠塚兼當	篠塚家	在銚子黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 35 年 8 月 12 日	封筒のみ
164	22-096-の 2	呉服屋松助	橋口家	在鎌倉橋口千賀子宛呉服屋松助書翰	明治 41 年 9 月 25 日	No.165 の 22-096 の 1 に同封の別紙 過日払込済みの麦酒会社の株券 70 枚の御渡しを請う
165	22-096の 1	橋口千賀子	橋口家	在東京黒田清輝宛在鎌倉橋口千賀子書翰	明治 41 年 9 月 27 日	来月 1 日に帰東する。呉服屋松助氏からの申出、本月末までに御取り計らいを
166	22-107	嶋津忠濟 家扶	嶋津家	在東京黒田清綱宛在東京嶋津忠濟家扶書翰	明治 41 年 10 月 18 日	嶋津家家令平岡之隆氏の依頼解職の通知
167	21-9	黒田清兼 芳子	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島嶋黒田清兼・芳子書翰	明治 41 年 10 月 25 日	清輝怪我の由心配、御見舞いとして丸ポロー箱進呈
168	21-23	黒田清兼	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島嶋黒田清兼書翰	明治 41 年 11 月 15 日	怪我の様子分かり安心した
169	23-066	嶋津貴暢	嶋津家	在東京黒田清輝宛在東京嶋津貴暢書翰	明治 42 年 10 月 6 日	先般上東の際の御世話を感謝、今後ともよろしく
170	32-17	黒田清兼 芳子	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島嶋黒田清兼・芳子電報	明治 42 年 10 月 21 日	電文「すみ（純子：清輝の異母妹）養生叶わず残念よろしく頼む 清兼・芳」
171	32-18	黒田清兼	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島嶋黒田清兼電報	明治 42 年 10 月 22 日	電文「葬式五日頼む」
172	36-51	黒田清兼	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島嶋黒田清兼葉書	明治 42 年 11 月 12 日	亡「純」の形見として三匹猪付金物の帯留と、清兼所持の目貫を進呈する
173	25-109	樺山愛輔	樺山家	在東京黒田清輝宛在東京樺山愛輔書翰	明治 43 年 2 月 3 日	重野安綱博士の御礼品進呈の寄付依頼書
174	28-34	黒田清兼 芳子	黒田家	在東京黒田清輝・綱祐宛在鹿児島嶋黒田清兼・芳子書翰	明治 43 年 2 月 4 日	『美術新報』の送付御礼 清兼の息男綱祐（清輝の異母弟）帰東、御厄介になる 家僕同様に扱ってくれ
175	28-41	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝宛在鎌倉黒田清綱書翰	明治 43 年 2 月 9 日	鹿児島島の乾氏より別紙到来、取扱い難しい（別紙なし）
176	32-087-01	樺山愛輔	樺山家	在東京黒田清輝宛在東京樺山愛輔書類	明治 43 年 2 月 16 日	封筒なし 重野安綱博士の御礼品進呈の寄附金領収證
177	28-35	黒田清兼	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島嶋黒田清兼書翰	明治 43 年 4 月 21 日	帰省後の帰東安着の電報落し、安心した。輝子夫人の病気は如何
178	26-008	篠塚兼當	篠塚家	在鎌倉黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治 43 年 5 月 17 日	清兼の息男綱祐不日帰郷の予定、旅費のことよろしく
179	24-113	黒田清兼	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島嶋黒田清兼電報	明治 43 年 8 月 6 日	鹿児島より電報、電文「本は受け取りました 島津」 電文「綱祐今日四時 川内川にて水泳中溺死す 死骸捜索中」

180	24-114	黒田清兼	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼電報	明治43年8月6日	電文「死体引揚すみ 今日川内より帰る筈」
181	24-115	黒田清兼	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼電報	明治43年8月7日	電文「綱柙遺骸今晚到着 明8日(午)後5時葬儀執行す」
182	24-116	黒田清兼	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼電報	明治43年8月8日	電文「葬儀無事済む」
183	24-122	橋口兼清	橋口家	在東京黒田清輝宛在北海道橋口兼清電報	明治43年8月12日	電文「今日『日刊』(東京日日新聞)にて綱柙溺死の報に接し哀悼の念に堪えず悔み申す」
184	24-155	黒田清兼 芳子	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼・芳子挨拶状	明治43年8月24日	封筒なし 綱柙死去につき、慰問を深謝する *綱柙変死につき鹿児島県に向かうこと『日記』3-805頁明治43年の9月5日条に記述あり
185	27-058	橋口清	橋口家	在東京白龍幾之助宛在東京橋口清書翰	明治43年12月14日	黒田先生への記念品贈呈に賛意、5円小為替にて送金
186	34-016	樺山資紀	樺山家	在東京黒田清輝宛在東京浄光明寺参拜所改築事務所 委員長 伯爵 樺山資紀書翰	明治44年1月13日以前	鹿児島県の浄光明寺参拜所改築募金趣意書
187	30-25	黒田清兼 辰	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼・辰書翰	明治44年5月15日	鎌倉へ転送、兄清輝・姉宛辰書翰同封 夏帽子等恵送の御礼
188	30-2	黒田清兼	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	明治44年7月6日	清兼の養子候補大給近清の件は立消えか 清兼の息女辰子(清輝の異母妹)に相応しい男子を捜してくれ。バナナ帽の恵送御礼 陸軍大將伏見宮貞愛親王来覧、清輝の事を記憶されていた 東京の暴風雨御見舞い。綱柙一周忌につき、菓子料として金1円送付した 「もと(清輝の異母妹)」は病気に罹ったが快方に向っている
189	32-45	黒田清兼 芳子	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼・芳子書翰	明治44年8月1日	綱柙一周忌供物料として金5円受領、感謝。昨日一年祭執行 鎌倉の橋口家別荘暴風で倒壊の由、折よく清輝は不在で何よりだった 養子はまだ決まらない、清輝兄とともに相応しい男子を見つけくれ 鹿児島大風雨被害甚大
190	32-50	黒田清兼	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	明治44年8月6日	
191	32-7	黒田清兼 芳子	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼・芳子書翰	明治44年10月2日	直綱の離婚承知。北村広堯氏(清輝の妹婿)、福岡の興會喜平太夫妻と養子の件熟談
192	34-18	黒田清兼	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	明治44年12月6日	
193	20-046	嶋津貴暢	嶋津家	在東京黒田清輝宛在鹿児島嶋津貴暢書翰	明治44年12月15日	倉内家所蔵の刀剣は大久保利通の旧蔵で海江田信義を経て倉内家に移されたもの
194	30-085	篠塚兼當	篠塚家	在鎌倉黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	明治45年2月9日	君子様黒田家寄留の届け提出、学齢通知書を小石川区役所に戻した
195	30-067	嶋津貴暢	嶋津家	在東京黒田清輝宛在鹿児島嶋津貴暢書翰	明治45年2月15日	勤務している学習院女学部焼失のこと新聞紙上で承知、御一同様無事ですか
196	32-34	黒田清兼	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼電報	大正2年11月15日	電文「簞笥見合す、針箱・鏡台頼む」
197	4-53	黒田清兼ほか	黒田家	在東京黒田清輝、照子宛在鹿児島黒田清兼・よし子・正彦・道盈・辰子書翰	大正3年6月19日	辰子の代筆か 梅北ゆめ氏帰覧、東京の黒田家の様子を聞いた。鎌倉の別荘落成の由、結構なこと 父清兼の病状その後大変良し。立派な絵画の御恵送を感謝する
198	43-114 -01	篠塚兼當	篠塚家	神田税務署宛在東京家令篠塚兼當書翰	大正3年8月26日	No.199の43-114-02の関連書翰。封筒なし 所得税決定高訂正願を提出。この件は『日記』3-971頁の大正3年8月27日条に記載あり
199	43-114 -02	篠塚兼當	篠塚家	在鎌倉黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	大正3年8月27日	封筒なしNo.198の43-114-01の書翰に同封されたものか
200	43-104	橋口兼清	橋口家	在東京黒田清輝宛在東京橋口兼清書翰	大正3年10月6日	所得税訂正、家賃は解決、西洋画報酬の700円は帰東の上、指示を仰ぎたい
201	34-063	橋口丹後	橋口家	在鎌倉黒田清輝宛在東京橋口丹後會葬體状	大正7年1月13日	橋口兼清の妹夏子の婚礼祝儀の御礼 父橋口勇馬の葬儀会葬の御礼



202	34-033	松方正義 ほか	樺山家	在東京黒田清輝宛 發起人 松方正義・ 樺山資紀・山本權兵衛書翰	大正 7 年 2 月 5 日	前鹿児島県知事高岡直吉氏が職中の尽力に謝意を表する晩餐会通知書
203	33-114	橋口丹後	橋口家	父勇馬七七日に付橋口丹後挨拶状	大正 7 年 2 月 - 日	封筒なし 父橋口勇馬の香奠返しを慈善事業に寄付する
204	33-075	樺山資紀	樺山家	在東京黒田清輝宛在東京三州倶楽部會長 樺山資紀書翰	大正 7 年 3 月 1 日	旧薩摩国鹿児島藩城出身者で構成する「三州会倶楽部」設立につき、会費の入 金依頼と事業内容
205	37-032	篠塚元三	篠塚家	在東京黒田清輝豫執事宛在東京市外千駄ヶ 谷篠塚元三葉書	大正 8 年 7 月 28 日	暑中見舞い
206	38-021	樺山愛輔	樺山家	在鎌倉黒田清輝宛在熱海樺山愛輔書翰	大正 9 年 1 月 1 日	年始挨拶
207	34-110	樺山愛輔	樺山家	在東京黒田清輝宛在東京樺山愛輔葉書	大正 9 年 4 月 14 日	夕食会の招待
208	35-105	嶋津忠重 家扶	嶋津家	在東京黒田清輝家扶宛在東京公爵嶋津忠重 家扶葉書	大正 10 年 4 月 22 日	島津忠重公爵のロンポン着の報告
209	40-096	嶋津家 キムラ	嶋津家	在鎌倉黒田清輝宛在東京嶋津家キムラ電報	大正 10 年 8 月 12 日	電文「陶器図案の件につき 明日朝行く 御待ち願う」 『日記』4 - 1376 頁の大正 10 年 8 月 13 日条に「木村氏入来」の記載あり
210	40-001	嶋津忠重家扶	嶋津家	在東京黒田清輝宛在東京嶋津忠重家扶書翰	大正 10 年 10 月 22 日	公爵夫人島津伊徳子氏の洋行の日程
211	39-087	嶋津忠重家扶	嶋津家	在東京黒田清輝宛在東京嶋津忠重家扶書翰	大正 10 年 11 月 18 日	公爵夫人島津伊徳子氏の洋行、11 月 28 日午前 9 時 30 分発の特急で神戸に向かう 本日の公爵夫人島津伊徳子氏の洋行出発に際し、見送りの御礼 『日記』4 - 1387 頁の大正 10 年 11 月 28 日条に「公爵夫人ヲ東京驛ニ送ル」の記載あり
212	40-078	嶋津伊徳子	嶋津家	在東京黒田清輝宛在東京嶋津伊徳子書翰	大正 10 年 11 月 28 日	公爵夫人島津伊徳子氏の洋行、1 月 10 日ヤルセーユ着、パリ・ロンポンに向かう
213	40-036	嶋津忠重家扶	嶋津家	在東京黒田清輝宛在東京嶋津忠重家扶書翰	大正 11 年 1 月 13 日	亡父樺山資紀伯（大正 11 年 2 月 8 日死去）の葬儀に懇切な御世話の御礼 『日記』4 - 139 頁の 2 月 13 日条に葬儀参列の記載あり
214	40-049	樺山愛輔	樺山家	在東京黒田清輝宛在東京樺山愛輔書翰	大正 11 年 2 月 16 日	公爵島津忠厚氏夫妻 2 月 17 日ロンポン着の電報あり
215	40-044	嶋津忠重家扶	嶋津家	在東京黒田清輝宛在東京嶋津忠重家扶書翰	大正 11 年 2 月 21 日	樺山資紀伯の葬儀に供花送付の御礼
216	37-222	橋口正美	橋口家	在東京黒田清輝宛在東京橋口正美葉書	大正 11 年 2 月 - 日	亡父樺山資紀伯五十日祭の通知
217	40-048	樺山愛輔	樺山家	在東京黒田清輝宛在東京樺山愛輔書翰	大正 11 年 3 月 3 日	差出人は永山武敏、島津長丸、永山盛興、島津健之助いずれも男爵 衆議院の院内交渉団体「公正会」退会、新団体組織の挨拶
218	35-003	永山武敏他	嶋津家	在東京黒田清輝宛永山武敏他書翰	大正 11 年 4 月 4 日	亡父樺山資紀伯忌明けの挨拶。記念のため聖徳太子奉讃会に若干金を寄付する
219	38-062	嶋津貴暢	嶋津家	在東京黒田清輝宛在大阪嶋津貴暢書翰	大正 11 年 4 月 15 日	星食会の招待状
220	44-076	樺山愛輔	樺山家	在東京黒田清輝宛在東京樺山愛輔書翰	大正 11 年 4 月 25 日	
221	40-011	嶋津康久	嶋津家	黒田清輝宛嶋津康久書翰	大正 11 年 6 月 1 日	
222	39-100	橋口兼清 田沼恒雄	橋口家	在東京黒田清輝・照子宛 在東京橋口兼清・田沼恒雄書翰	大正 11 年 11 月 1 日	橋口兼清の弟 橋口三郎氏の結婚披露宴案内状
223	40-082	橋口兼清	橋口家	在東京黒田清輝・照子宛在東京橋口兼清書翰	大正 11 年 11 月 12 日	橋口兼清の弟 橋口孝氏の結婚披露宴招待状
224	33-010	嶋津忠重家扶	嶋津家	在東京黒田清輝家扶宛在東京嶋津忠重家扶 書翰	大正 12 年 2 月 4 日	公爵島津忠重氏英国滞在中の病氣（盲腸炎）についての報告
225	44-189	嶋津健之助	嶋津家	在東京黒田清輝宛在東京嶋津健之助葉書	大正 12 年 9 月 12 日	震災見舞の礼状
226	33-001	嶋津忠重	嶋津家	在東京黒田清輝宛在東京嶋津忠重書翰	大正 12 年 9 月 27 日	震災見舞の礼状 島津忠重公爵は鎌倉で被災するも無事
227	44-180	嶋津忠承	嶋津家	黒田清輝宛在東京嶋津忠承書翰	大正 12 年 9 月 30 日	震災見舞の礼状
228	37-116	樺山愛輔	樺山家	在東京黒田清輝宛在東京樺山愛輔書翰	大正年間の 12 月 15 日	年次は大正 6 年以降。昨日清輝に相談したことを岡氏に報告
229	14-062	篠塚兼當	篠塚家	黒田清輝宛家令篠塚兼當書翰	年次不記 4 月 9 日	恩給金を東京府より受取る

230	47-64	黒田清綱	黒田家	黒田清輝宛黒田清綱書翰	年次不記 4 月 11 日	年次の下限は大正 5 年。馬車のこと示談調えば栄吉氏に暇を出すように
231	47-48	黒田清兼	黒田家	在東京黒田清輝宛在鹿児島黒田清兼書翰	年次不記 5 月 13 日	清輝腫物全快の由安心。琉球泡盛・氷砂糖を進呈
232	14-019	篠塚兼當	篠塚家	黒田清輝宛家令篠塚兼當書翰	年次不記 8 月 13 日	美術学校よりの書状到来、来客名簿。額縁屋が額縁を、安藤氏は肖像油絵持参箱根行を取止め、沼津および修善寺温泉へ行く予定
233	9-114	黒田清綱	黒田家	在東京黒田清輝宛在鎌倉黒田清綱書翰	年次不記 8 月 30 日	年次の下限は大正 5 年。封筒なし。山間幽谷の地滞在の様子、明日鎌倉へ引揚げる
234	12-16	黒田清綱	黒田家	黒田清輝宛黒田清綱書翰	年次不記 9 月 5 日	年次の下限は大正 5 年。別紙の件 (内容不明) 篠塚氏自ら出張して断るよう到大給氏への返詞を出すように
235	19-5	黒田清綱	黒田家	篠塚宛黒田清綱書翰	年次不記 9 月 9 日	年次の下限は大正 5 年。別紙の件 (内容不明) 篠塚氏自ら出張して断るよう大給氏への返詞を出すように
236	09-121	樺山愛輔	樺山家	在東京黒田清輝・同御内室宛在東京樺山愛輔書翰	年次不記 9 月 16 日	明日の晩餐会案内
237	48-21	黒田清綱	黒田家	章一宛黒田清綱書翰	年次不記 9 月 18 日	封筒なし 年次の下限は大正 5 年 区入費上納等出費が多いので、清輝と相談して 50 円位銀行からの引出しを請う
238	18-082 -02	橋口しげ	橋口家	おばば宛橋口しげ書翰	年次不記 10 月 4 日	針箱を頂戴感謝
239	15-059 -01	樺山愛輔	樺山家	黒田清輝宛樺山愛輔書翰	年次不記 11 月 12 日	封筒なし。11 月 14 日主人誕生日につき親戚懇親会の案内
240	22-064	嶋津忠亮	嶋津家	在東京黒田清輝宛在東京嶋津忠亮書翰	年次不記 11 月 23 日	年次は「白馬会」の記述があるので明治 29 ～ 44 年の間 旧薩摩国鹿児島藩士の家系の吉原謙氏絵画修業志望につき「白馬会」に紹介を請う
241	49-016	嶋津家扶	嶋津家	在東京黒田清綱宛在東京嶋津家扶書翰	年次不記 12 月 27 日	年次の下限は大正 5 年 読話を伺いたい、御都合は如何
242	09-123	杉竹二郎	杉家	黒田清輝宛杉竹二郎書翰 (メモ)	年月不記 4 日	年次の下限は大正 2 年 久米桂一郎が来ているので来宅を請う
243	46-003	杉竹二郎	杉家	黒田清輝宛杉竹二郎書翰	年月不記 8 日	年次の下限は大正 2 年 今日午後箱根へ出発するか如何
244	47-003	杉竹二郎	杉家	黒田清輝宛杉竹二郎書翰	年月不記 14 日	年次の下限は大正 2 年 病気で退屈しているから話に来てくれ
245	46-010	杉竹二郎	杉家	黒田清輝宛杉竹二郎書翰	年月不記 16 日	年次の下限は大正 2 年 今日午後久米桂一郎を交えて研究会を開催、コーヒーを点てて待っていてくれ
246	07-062	杉竹二郎	杉家	黒田清輝宛杉竹二郎書翰	年月日不記	月曜日、年次の下限は大正 2 年 久米桂一郎はどうしている。病中退屈だから見舞いに来てくれ
247	22-33	黒田清綱	黒田家	黒田清輝宛黒田清綱封筒	年月日不記	年次の下限は大正 5 年
248	09-91	杉竹二郎	杉家	杉竹二郎名刺	年月日不記	名刺裏にフランス語の書き込みあり、年次の下限は大正 2 年
249	09-119	橋口千賀子	橋口家	黒田清輝宛橋口千賀子書翰	年月日不記	話たいことがあるので明日にでも来て下さい
250	08-106	杉竹二郎	杉家	黒田清輝宛杉竹二郎書翰	年月日不記	本文フランス語、年次の下限は大正 2 年
251	09-118	杉竹二郎	杉家	黒田清輝宛杉竹二郎書翰	年月日不記	本文フランス語、年次の下限は大正 2 年
252	09-125	杉竹二郎	杉家	黒田清輝宛杉竹二郎書翰 (メモ)	年月日不記	本文フランス語、年次の下限は大正 2 年
253	11-189 -02	松波 杉竹二郎	杉家	黒田清輝宛松波・杉竹二郎書翰	年月日不記	杉邸にきてくれ、年次の下限は大正 2 年
254	09-103	樺山とも子	樺山家	黒田清輝宛樺山とも子書翰	年月日不記	封筒のみ
255	14-027	樺山愛輔	樺山家	黒田新太郎 (清輝) 宛樺山愛輔書翰	年月日不記	本日の大磯行中止、今明日中面会の上相談したい
256	38-099	樺山資英	樺山家	樺山資英名刺	年月日不記	

第5表 黒田清輝宛書翰類 美術関連の目録

文中の「上東」は東京に来ること。

番号	全体 番号	史料番号	差出人	家分け	史料名	作成年月日	備考および主な内容
①	3	2 - 53-1	黒田清綱	黒田家	在パリ 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治19年4月□日	清輝の美術への方向転換に関する相談に対し、もう一考を要するという返答
②	5	2-58	黒田清綱	黒田家	在パリ 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治19年5月13日	送付された亡平吉の肖像画の出来映え良し。清輝からの依頼品を送付した
③	6	2-68	黒田清綱	黒田家	在パリ 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治19年7月1日	依頼の古墨等を欧州各国巡回使に託す
④	7	8 - 3-1	黒田清綱	黒田家	在パリ 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治19年7月9日	清輝の美術への方向転換を諒承し、確認する。実父や橋口文藏は賛成、橋口直右衛門は反対の意向
⑤	10	2-79	黒田清綱	黒田家	在パリ 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治19年8月20日	依頼の古錦切類と花菖蒲の種子に関する件を確認
⑥	11	2-84	黒田清綱	黒田家	在パリ 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治19年8月27日	依頼の古錦切類と花菖蒲の種子とともに「新古今集」を送付
⑦	13	8-111-1	黒田清綱	黒田家	在パリ 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治19年11月11日	依頼の古錦切類等を入れた箱を落手したか、「新古今集」は詠歌の参考に
⑧	14	2-5	黒田清綱	黒田家	在パリ 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治19年11月25日	古錦切類等を入れた箱未着なら、横浜通運会社に関い合せをする
⑨	15	2-1	黒田清綱	黒田家	在パリ 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治19年12月16日	古錦切類等を入れた箱到着の由安堵した
⑩	17	31-013	橋口文藏	橋口家	在東京 黒田清綱宛在パリ 橋口文藏書翰	明治21年5月3日	清輝が熱心に修業しているのを実見した。教師・友人の評判も良い
⑪	22	47-61	黒田清綱	黒田家	在パリ 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治26年4月6日	共進会出品の結果見極めのためパリ滞在延長を了解、費用はパリに送金する
⑫	31	47-73	黒田清綱	黒田家	在京都 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治26年12月1日	「清水の圖」「周山之秋景色」の進捗具合は如何
⑬	34	48-2	黒田清綱	黒田家	在東京 黒田清輝宛在鎌倉 黒田清綱書翰	明治27年3月24日	貴族院より清輝に、副議長東久世通禧の肖像油画揮毫の依頼があった
⑭	43	47-22	黒田清綱	黒田家	在東京 黒田清輝宛在廣嶋 黒田清綱書翰	明治27年10月15日	貴族院より依頼の額画を議会開会時に掲出するように画策する
⑮	48	7-26	黒田清綱	黒田家	在廣嶋 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治27年11月23日	上野公園の展覧会出品の絵画の評判を新聞切抜きで見た
⑯	52	9-39-001 ～ 005	篠塚兼當	黒田家	在京都 黒田清輝宛在東京 篠塚兼當書翰	明治28年3月18日	掛物二幅落手、真偽はともかく頗る傑作 展覧会出品の絵画を批評した新聞切抜きを同封した
⑰	54	13-127-1	黒田清綱	黒田家	在京都 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治28年3月19日	京都博覧会出品作品を納めた大箱の運賃の件
⑱	56	13-127-2	黒田清綱	黒田家	在京都 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治28年3月29日	博覧会事務からと長田氏および清兼殿よりの書翰同封した
⑲	57	9-58	黒田清兼	黒田家	在京都 黒田清輝宛在鹿兒嶋 黒田清兼書翰	明治28年3月31日	京都市博覧会開期切迫につき御繁忙を遠察 出発の翌日 台田氏と久米桂一郎氏来邸、座敷の鉤物を撮影
⑳	60	13-128-1	黒田清兼	黒田家	在京都 黒田清輝宛在鹿兒嶋 黒田清兼書翰	明治28年4月7日	東京出張の途次博覧会開催中の京都へ立寄るので宿所の手配を頼む
㉑	62	8-21	黒田清綱	黒田家	在京都 黒田清輝宛在鎌倉 黒田清綱書翰	明治28年4月11日	博覧会の盛況新聞報道で承知、出品の絵画議論の未陳列できたのは愉快だが 博覧会見学に向きたいが
㉒	65	09-049-01	篠塚兼當	篠塚家	在京都 黒田清輝宛在東京 篠塚兼當書翰	明治28年5月5日	区役所より出品賃の割引証文を交付されたので送付した
㉓	74	8-14	黒田清綱	黒田家	在京都 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治28年6月10日	博覧会の鉤物館・美術館に出品する画の抽出を久米氏に依頼し、郵送した
㉔	76	10-40	黒田清綱	黒田家	在京都 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治28年7月5日	金州からの行李落手、送付された作品は元の通り格護しておく
㉕	78	10-36	黒田清綱	黒田家	在京都 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治28年7月10日	久米氏泊り込みで画書を作成している 博覧会閉会後帰東の期日を知らせてくれ
㉖	94	10-27	黒田清綱	黒田家	在京都 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治28年10月15日	清輝の日本画の師樋口探月の絵描きの妻病死の報あり
㉗	95	13-126	黒田清綱	黒田家	在京都 黒田清輝宛在東京 黒田清綱書翰	明治28年10月21日	昨日橋口文藏氏の家族と上野博覧会を久米氏の案内で観覧した



②⑧	96	10.019	橋口千賀子	橋口家	在京都黒田清輝宛在東京橋口千賀子書翰	明治28年11月4日	先日父上と私の家族とで上野博覧会見学に行った
②⑨	113	08-131	杉竹二郎	杉家	在東京黒田清輝宛在パリ杉竹二郎書翰	明治29年5月10日	「サロン」や「シャレドコルス」に行った、面白い絵が沢山あったのでカタログを送る。西園寺氏から頼まれた絵は出来あがったか
③⑩	114	08-136	杉竹二郎	杉家	在東京黒田清輝宛在パリ杉竹二郎書翰	明治29年5月29日	清輝が美術学校の教師になったことは悪くはなからう 清輝の仏国行の話は駄目かも。「サロン」の目録を送る、久米氏にも見せてくれ
③⑪	115	14-020	篠塚兼當	篠塚家	在大磯黒田清輝宛在東京篠塚兼當書翰	明治29年8月18日	松方正作氏が暇乞いに来た。清輝に権山伯爵の肖像画製作の依頼があった
③⑫	116	08-137	杉竹二郎	杉家	在東京黒田清輝宛在イギリス杉竹二郎書翰	明治29年8月23日	清輝が造った庭の写真を送ってくれ 週に二、三度 Bird のアトリエに行き、日本絵の講釈をしている
③⑬	118	11-307	杉竹二郎	杉家	在東京黒田清輝宛在パリ杉竹二郎書翰	明治29年11月19日	「白馬会」とはどういう意味か、明治美術会の向こうを張っているのか、面白いことをやっているな
③⑭	119	14-030-01	篠塚兼當	篠塚家	在京都黒田清輝宛在東京篠塚兼當書翰	明治29年12月8日	久米氏より美術学校の月給57円75銭を受取った
③⑮	123	12-007	杉竹二郎	杉家	在東京黒田清輝宛在パリ杉竹二郎書翰	明治30年3月2日	「白馬会」の名称は象徴的な意味かと思っていたが「濁酒」のことか、旧派の奴等へへこますのは面白い。「小督」の絵、仕上がったら写真を送ってくれ
③⑯	126	13-204	篠塚兼當	篠塚家	在箱根黒田清輝宛在東京篠塚兼當書翰	明治30年8月12日	注文の『国華』93冊今朝届いた、1冊1円とのこと
③⑰	133	12-052	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京篠塚兼當書翰	明治31年3月8日	「白馬会」の物品を小林文七氏に貸渡す
③⑱	138	15-014	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京篠塚兼當書翰	明治31年5月4日	絵画2封到着したが、送付するか
③⑲	142	15-015	篠塚兼當	篠塚家	在逗子黒田清輝宛在東京篠塚兼當書翰	明治31年5月27日	辰野金吾氏より前大学総長のポートレート作成の打合せの日次問合せあり
④⑩	150	15-023	橋口勇馬	橋口家	黒田清輝宛在東京橋口勇馬書翰	明治31年7月7日	元陸軍歩兵曹長松原義七氏画業修業志望につき、本人との面会を請う
④⑪	151	12-066	篠塚兼當	篠塚家	在日光黒田清輝宛在東京篠塚兼當書翰	明治31年8月6日	松原義七氏の件、合田氏に相談したが、年齢が嵩み難しい由
④⑫	153	12-095	篠塚兼當	篠塚家	在日光黒田清輝宛在東京篠塚兼當書翰	明治31年8月16日	東京府より仏国博覧会出品指令書を渡された
④⑬	155	16-018	篠塚兼當	篠塚家	在静浦黒田清輝宛在東京篠塚兼當書翰	明治32年1月1日	静浦は静岡県。年始葉書到来人名、浅井忠・田中阿歌麿・岡倉覺三など
④⑭	156	16-039	篠塚兼當	篠塚家	黒田清輝宛家令篠塚兼當書翰	明治32年1月4日	年始葉書到来人名：追加、藤島武二・結城貞松など
④⑮	158	15-007	篠塚兼當	篠塚家	黒田清輝宛家令篠塚兼當書翰	明治32年6月24日	臨時博覧会事務局よりパリ博覧会出品規則等到来
④⑯	197	4-53	黒田清兼 （まか）	黒田家	在東京黒田清輝、照子宛在鹿児島黒田清兼・よし子・正彦・道盈・益代書翰	大正3年6月19日	立派な絵画御恵送感謝
④⑰	199	43-114-02	篠塚兼當	篠塚家	在鎌倉黒田清輝宛在東京家令篠塚兼當書翰	大正3年8月27日	西洋画報酬の700円の扱いを相談したい
④⑱	232	14-019	篠塚兼當	篠塚家	黒田清輝宛家令篠塚兼當書翰	年次不記8月13日	美術学校よりの書状。額縁屋が額縁を、安藤氏は肖像油絵持参
④⑲	240	22-064	嶋津忠亮	嶋津家	在東京黒田清輝宛在東京嶋津忠亮書翰	年次不記11月23日	旧薩摩国鹿児島藩士吉原謙氏絵画修業志望につき「白馬会」に紹介を請う
⑤⑩	245	46-010	杉竹二郎	杉家	黒田清輝宛杉竹二郎書翰	年月不記16日	今日午後久米桂一郎氏を交えて研究会開催、コーヒーを点てて待っていてくれ